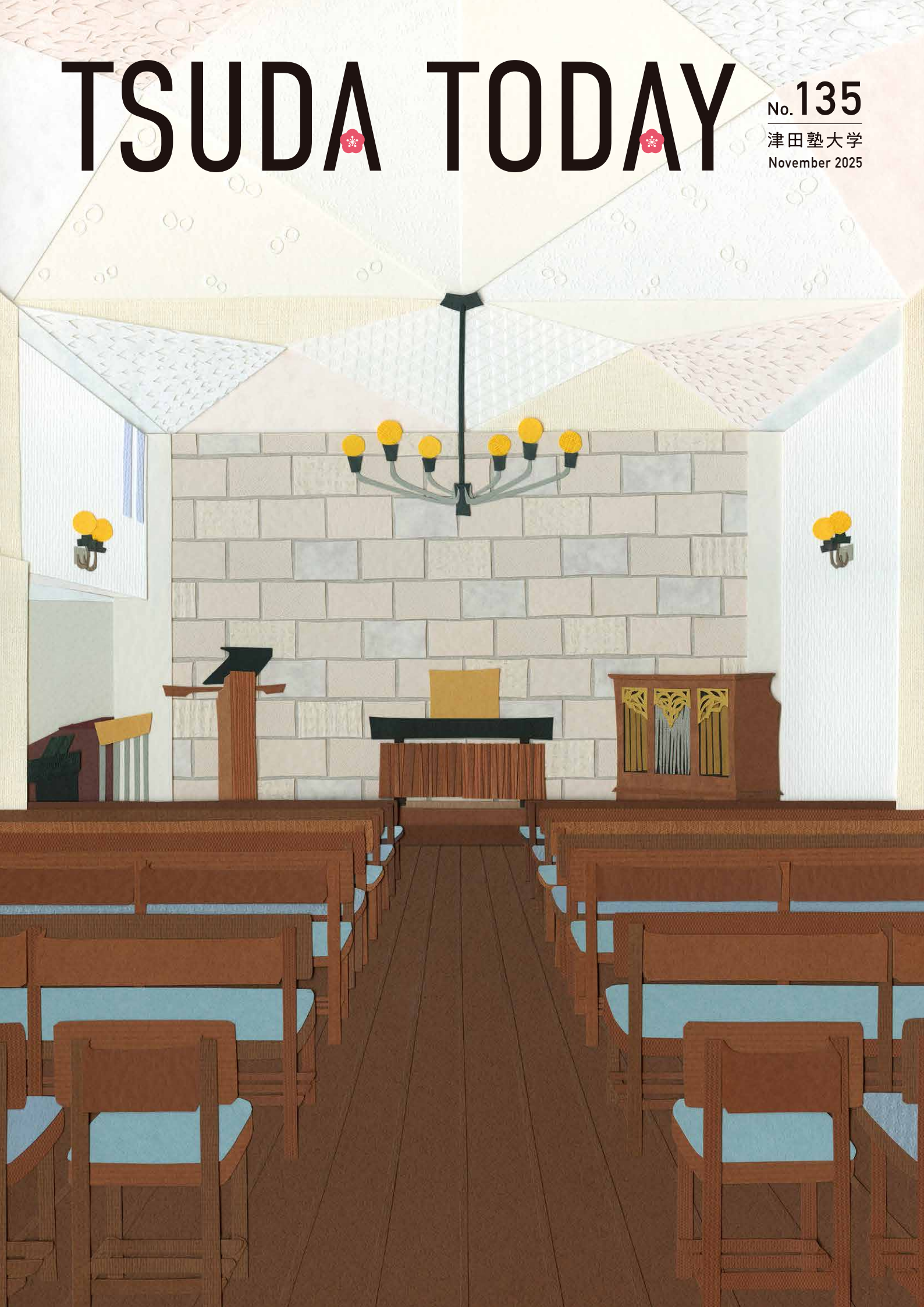
TSUDA TODAY

No.135
津田塾大学
November 2025



津田梅子記念会＆ホームカミングデー
津田塾大学創立125周年記念式典、記念講演・対談を開催

2025年10月12日、本学小平キャンパスにて、「津田梅子記念会＆ホームカミングデー」と同時開催で津田塾大学創立125周年記念式典を挙行しました。

記念式典では、文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当）先﨑 卓歩氏、日本私立大学連盟会長 田中 愛治氏（早稲田大学 総長）や津田塾大学同窓会会長 内海 房子氏が来賓として登壇され、祝辞を述べられました。また、本学からは、島田精一理事長と髙橋裕子学長が挨拶を述べ、永井敦副学長が創立125周年記念事業委員会副委員長として記念事業報告を行いました。

午後には、創立125周年記念講演・対談も開催されました。

津田梅子記念会＆ホームカミングデー・創立125周年記念式典に参加して

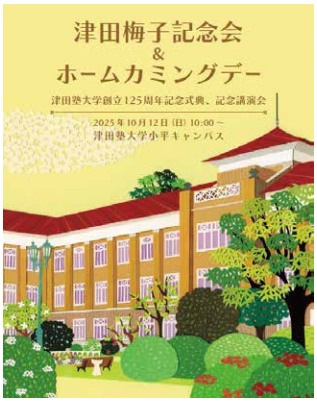
津田塾大学同窓会副会長・学芸学部国際関係学科教授　渡邊 あや

2025年10月12日、津田塾大学 小平キャンパスにおいて、「津田梅子記念会＆ホームカミングデー」が開催されました。本学の創立125周年を記念する節目の年に、多くの卒業生、在学生、教職員、関係者が一堂に会しました。

午前の部では、まず、中島昭子氏（学校法人捜真学院学院長）を奨励者に迎え、Rosa W.S. Suen本学専任講師の司会、吉朝加奈氏（東邦大学准教授）の奏楽のもと、「津田梅子記念礼拝」が執り行われました。

引き続き行われた創立125周年記念式典では、島田精一理事長の挨拶で幕を開け、来賓として先﨑卓歩文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当）、田中愛治日本私立大学連盟会長・早稲田大学総長、内海房子津田塾大学同窓会長より祝辞を頂戴しました。これを受け、髙橋裕子学長の挨拶、永井敦副学長による創立125周年記念事業の報告が行われ、「Alma Mater」の斉唱で閉式しました。

式典に続き、女性起業家のパイオニアとして知られる今野由梨氏（ダイヤル・サービス株式会社 代表取締役社長）への津田梅子賞贈賞式が開催され、同氏による記念スピーチが行われました。また、第25回高校生エッセー・コンテスト表彰式では、最優秀作品の受賞者によるビデオメッセージと朗読も紹介され、会場は温かい拍手に包まれました。



午後の部では、2024年度ボーン・上田記念国際記者賞を受賞した倉茂由美子氏（読売新聞記者）を迎え、「倉茂由美子が語る『変革を担う、女性であること』」と題した記念講演が行われました。講演後は、大島美穂学長補佐を聞き手とする対談も行われ、参加者は熱心に耳を傾けました。

また、当日は、20年・30年・40年・50年・55年の周年同期会をはじめ、津田梅子資料室企画展示「写真で見る125年」、特別展示「津田梅子の小袖」、創立125周年記念事業「平和の轍（わだち）を繋げる－ケーテ・コルヴィッツ展」、津田梅子記念交流館自主フォーラム英語のひろば「第26回 Let's 国際交流」、多文化・国際協力学科主催「卒業生シンポジウム2025」、同窓会による「同窓会サロン」など、多彩なプログラムが行われました。なお、来場者には髙橋学長の編著『女子教育のパイオニア 津田梅子』が配布されました。

2025年度津田梅子記念礼拝　奨励要約「不思議な摂理」

コリントの信徒への手紙二　第4章8節～9節（新共同訳）

奨励者：中島 昭子 氏（学校法人捜真学院 学院長）

創立125周年の節目にあたり、津田梅子記念礼拝にお招きいただき、津田梅子先生を覚え、皆さまと共に礼拝を守ることができましたことを、心より感謝申し上げます。先生は6歳で岩倉使節団に随行し、信仰が禁じられていた時代に海を渡られました。8歳で洗礼を受けられたその歩みは、まさに神の導きのうちに始まった信仰の旅であったと感じます。帰国後は、女性の高等教育という当時誰も歩んだことのない道を開かれ、どのような困難の中にあっても聖書の御言葉に支えられ、信仰と使命をもって前へと進まれました。その生涯に、私は「神が人ひとりの前に必ず道を開かれる」という確信を見ます。津田先生の卒業式式辞にある「真理・愛・献身・信仰」という言葉は、今も私たちを導く灯台のように輝き続けています。先生が語られた「不思議な運命」という言葉に、神の摂理の深さと、時を超えて働く信仰の確かさを改めて覚えました。

創立125周年記念講演・対談
倉茂由美子が語る「変革を担う、女性であること」

午後の部では、2024年度ボーン・上田記念国際記者賞を受賞した倉茂由美子氏（国際関係学科2005年卒・国際関係学研究科修士課程2008年修了、読売新聞社ローマ特派員）をお迎えし講演と対談が行われました。

講演では、受賞の対象となったウクライナ戦争についての一連のルポルタージュと今夏の最新の取材について、臨場感のある話や動画が続きました。特に、勇ましさが強調され、通称「ブチャの魔女」と言われるウクライナの女性兵士が、軍の決まりを押し切ってまで最前線へと向かっていく、その背景にある想いは胸を打ちました。ウクライナの人々が自宅や家族を失い、今も戦いが終わらない大変な状況にあるにも関わらず、倉茂さんのインタビューに長時間にわたって応じてくれる理由として、「ここで起きていることを、あなたから伝えてほしい」という彼らの強い想いがあると倉茂さんは淡々と語ってくれました。

その後の、大島美穂（総合政策学部教授、学長補佐）との対談では、倉茂さんの学部の指導教員であった小倉充夫先生や、大学院修士課程の指導に当たった加納弘勝先生の資料を参考に、本学での学生生活、特に和気藹々としたゼミの様子、修論のテーマ、新聞記者としての経験などを伺いました。学部時代の学外学修（カナダの語学研修とモロッコでのワークキャンプ）でのイスラムの人々との出会いがその後の彼女のイスラム研究に結びついたこと、修論ではエジプトのムスリム同胞団のボランティア活動によって支えられている病院にアポなしで単身乗り込み、イスラム教団体の地域における役割を考察したこと、読売新聞入社後の事件記者としての経験や、カイロ支局の特派員だった際に執筆したイスラム女性のドキュメントについてなど、現場の声を記者として丁寧に聞く倉茂さんの姿勢が、本学での学びを出発点とし、その後一貫して続いていることが浮き彫りになりました。

学部時代の逸話についてなど、詳細はぜひ大学公式YouTubeの動画をご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=ImYRCaDXaoM

倉茂由美子氏による講演

倉茂氏（右）と大島美穂学長補佐（左）による対談

いま、ケーテ・コルヴィッツに出会う
創立125周年事業－「平和の轍（わだち）を繋げる－ケーテ・コルヴィッツ展」

本学創立125周年記念事業として、激動の20世紀の渦中から力強く人間の本質に迫る創作を続けたドイツの女性芸術家ケーテ・コルヴィッツ（1867-1945）の版画などを紹介する「平和の轍（わだち）を繋げる－ケーテ・コルヴィッツ展」が、津田梅子記念交流館山根記念ギャラリーで開催されています（小淵沢フィリア美術館協力、2025年10月1日～12月18日）。

戦争に向かう不穏な時代にあって、ケーテは若い頃から版画やエッチング、彫刻などの創作に取り組み、社会的なテーマを展開しました。貧しさの中から立ち上がる農民たちの厳しい現実を描き出した「農民戦争」の版画、またエッチングには市井の人々や子どもたちの日常の姿が浮かび上がります。息子の戦死を母として受け止める苦悩が結実した大作のブロンズ像「死んだ息子を抱く母親（ピエタ）」は現在ベルリンの国立中央追悼記念館（ノイエ・ヴァッフェ）に置かれていますが、その圧倒的な存在感から伝わってくる命への悼みは、今も変わらず普遍的なメッセージを世界に伝えています。ナチズムによって創作を禁じられアトリエに戻ること叶わぬまま1945年に世を去ったケーテは、「平和」を願う心からの願いを孫娘に遺したそうです。

10月19日には詩人の小池昌代氏（本学卒業生）と、ケーテへのオマージュ作品を今回の展示にあわせて制作された画家の山内若菜氏（本学で5月に作品展開催）をお迎えしてのギャラリー・トークも行われました。表現者として出会ったケーテへの想いや、「女性であること」について、そしてお二人それぞれの創作をめぐるエピソードなど、時空を超えるテーマをめぐる豊かで刺激的な言葉が、

小池昌代氏（左）と山内若菜氏（右）によるギャラリートーク

静かな感動で会場を包みました。トークの後に再び展示を見た参加者から、「一つひとつの作品が、新しい光を放っているようでした」と感想が寄せられました。（早川 敦子）

「津田梅子がお札になった日」が記念日登録され、『紙幣発行1周年記念 お札サミット in ふかや』に本学教職員が参加しました

7月3日が、「津田梅子がお札になった日」に登録されました。

本学の創立者・津田梅子が新五千円札の肖像となったことを記念し、その功績をあらためて顕彰すべく、学校法人津田塾大学は7月3日を「津田梅子がお札になった日」として申請し、一般社団法人日本記念日協会に登録されました。

一般社団法人日本記念日協会　**https://www.kinenbi.gr.jp/**

7月9日、『紙幣発行1周年記念 お札サミット in ふかや』が開催されました。

本学からは島田理事長、髙橋学長をはじめとする教職員が参加し、多くの来場者とともに新紙幣発行1周年を祝いました。

新一万円札の肖像となった渋沢栄一の生誕地・埼玉県深谷市で行われた本サミットでは、これからの地域、教育、経済の発展に向けた「お札サミット宣言」が採択され、続いて「渋沢栄一がお札になった日」「津田梅子がお札になった日」「北里柴三郎がお札になった日」の記念日登録発表ならびに記念日登録証授与式が行われ、島田理事長、髙橋学長、奥脇副学長が登壇しました。

創立125周年記念講演会 社会学者上野千鶴子が語る「変革を担う、女性であること」

2025年9月6日小平キャンパス特別教室で、創立125周年記念講演会 社会学者上野千鶴子が語る「変革を担う、女性であること」を開催しました。本学ではこれまでも「創立120周年記念事業」として「変革を担う女性」をテーマに掲げ、本学の歴史や関係者の想い、さらには本学での学びが現在の自分にどのように結びついているかといった話をしていただきました。「創立125周年記念事業」では、未来を担う女性たちに向けて、力強いメッセージを発信したいと考え、上野千鶴子先生にご講演をお願いしました。

上野先生からは、「男女間賃金格差の国際比較」、「女はなぜ低賃金？稼げるポストに就いていないから」、「いま日本の女性の働ける女性の10人に7人以上は働いている、働いている女性の10人に6人近くは非正規で働いている」、「離職はこれだけソン生涯年収2億円の差」などのお話が、データとそれを生み出した社会背景とともに語られました。そして、「有名無名な方たちが世の中を少しずつ変えてきた、そういう変化は勝手に起きたのではない、誰かが少しずつ変えてきたんだ」、「女の人が責任ある立場に立ち意思決定権を持てば予算も使えるし、いろんなことができる。女の人の意欲を引き出せばいろんなことができる。その実例がいま世の中にあふれている」というお話が、具体例を示して届けられました。活発な質疑応答もあり、多くの参加者、視聴者から、パワーをもらったとの感想が寄せられました。

第66回津田塾祭を開催しました

第66回津田塾祭実行委員会委員長　片山 優芽

第66回津田塾祭を2025年10月18日、19日に津田塾大学小平キャンパスにて開催しました。

多くの参加団体や出店者様が参加し、地域や学生の皆様をはじめとする多くの方々にご来場いただきました。また外部ゲストやステージ企画では、大人から子供までお楽しみいただくことができ、笑顔溢れる学園祭となりました。

開催にあたり、同窓会の皆様、大学関係者の皆様、地域の皆様、ご尽力いただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。活動の中で、委員の思いや発想を形にし、実現することができたのは、皆様の温かなご協力のおかげであると心から感じております。

皆様から応援していただける組織であれるよう、これからも委員一同邁進して参ります。来年度以降も津田塾祭のご支援・ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

2025年度 津田梅子賞 選考結果報告

2010年に津田塾大学創立110周年を記念して創設した「津田梅子賞」も今年で第15回を迎えました。本賞は、津田梅子のパイオニア精神にちなみ、女性の未来をひらく可能性への挑戦を顕彰することを目的とします。

選考対象

以下の1. または2. に該当する個人/団体で、現代社会に顕著な影響を与えた方

1. 女性の可能性を広げる取り組みを行う個人または団体・組織（性別を問いません）
2. さまざまな分野で先駆的な活動を展開した女性

津田梅子賞受賞者　今野 由梨氏（写真中央）と選考委員

受賞者紹介

今野 由梨 氏（ダイヤル・サービス株式会社 代表取締役社長）

1936年三重県桑名市生まれ。1959年に津田塾大学英文学科を卒業後、女性であることを理由に就職ができずアルバイトで生計を立てたことで、「10年後にニュー・ビジネスを興す。会社を設立する。」と決意。

1964年、NY万国博覧会（日本館）のコンパニオンで日本初の女性広報委員となる。1965年、欧州の電話秘書サービス（TAS）と電話情報サービス機関SVP（シル・ヴ・プレ社）を視察する。

1967年に帰国し、1969年、6名の女性とともにダイヤル・サービス株式会社を設立し、代表取締役社長に就任。日本初の電話秘書サービス（TAS：Telephone Answering Service）を開始。

赤ちゃん110番（1971年）、子ども110番（1979年）、熟年110番（1981年）、ヤング・トーク・トーク・テレホン（1981年）、健康相談（1987年）、アメリカ生活110番（1988年）、ボランティア・アクティビティ・ホットライン（1993年）、セクハラ・ホットライン（1999年）、メンタルヘルス・ホットライン（2009年）、認知症TESTER（2014年）、生きるんダイヤル（2021年）など、時代のニーズに応える多数の電話相談サービスを展開し、育児、いじめ、健康相談、メンタルヘルス、ハラスメント、企業倫理といった多岐にわたるビジネスを展開。

また、今野氏は「ベンチャーの母」として、「国境なきお母さん」として、若手起業家への支援も積極的に行い、中国・韓国などのアジアのリーダーからも慕われている。内閣府、郵政省、通商産業省、文部省などの審議委員も歴任し、公的にも女性活躍機会増進のため尽力してきた。

上記のような今野氏の活躍は、変革を担う女性として、時代とともに形を変え、社会のニーズに即しながら女性活躍を後押しするものであり、後進の支援活動に情熱を傾けた津田梅子がめざしていた次世代の育成に共鳴する部分があり、本賞受賞に値すると考える。

●贈賞式でのスピーチ

私は、ダイヤル・サービス株式会社の今野由梨と申します。

この度は、思いがけず名誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。本日お伝えしたいのは「起こったことには意味がある」ということです。私の人生は、9歳の戦争体験から大きく変わりました。空襲によって、生まれ育った美しい町、我が家、学校や歴史文化の象徴である神社仏閣まで一瞬ですべて灰になり、何と私自身まで一度死んで生き返る奇跡の体験をしました。見知らぬ男性に背負われて生き返ったその瞬間から、「自分は何のために生き返らせられたのか」という問いが心に芽生えました。

津田塾大学に進学したのも、戦争体験を通じて「罪なき子どもを戦争で殺さないで」とアメリカに伝える使命を感じたからです。中学時代、東京から来られた女性教師に津田塾大学の存在を教わり、「あなたが行くべきはここ！」と背中を押され、女性がなぜ東京の四年制大学に！という周囲の反対を押し切って進学しました。

1959年、津田塾大学を卒業しましたが、就職活動では全社不採用でした。「仕事は男性がする。女性は命ぜられた事にニコニコハイハイ従えば良い。」何でも自分の意見を言おうとする女は不要と言われ、深く傷つきましたが、その時芽生えた使命感がその後の原動力となり、女性の未来を切り開くのは自分だと決意しました。

就職に失敗した後は逆に、多彩なアルバイトを通じて実力を認められ、数多くの新聞、雑誌、テレビ番組の企画、出演、そして何と曽野綾子原作で松竹映画「ぜったい多数」という映画にまでなりました。1969年5月1日、卒業からちょうど10年後、世界初の電話を使った情報サービス会社「ダイヤル・サービス株式会社」を創業。情報は上から降りてくるものではなく、一般市民が発信者になって国民の声を国に届け新しい時代を創るのだ、という強い信念をもって。

育児に悩む母親たちがいつでも相談できる世界初の電話による育児相談サービスを立ち上げました。それが新聞に小さく取り上げられた瞬間に、全国から電話が殺到し、何度も回線がパンク。国からは「電話は国の財産」「法律違反」「規制違反」と叱責され、何度もしょっ引かれましたが、社員達と何があろうと絶対に負けない、泣かないと誓い、笑って戦い抜きました。電話を通じて寄せられる声は、もう死ぬと泣き叫ぶ子供や若者、お年寄りの切実な叫びでした。私達は「命に寄り添うサービス」として、24時間365日絶えることなくその声に耳を傾け命に寄り添い続けることが、自分の使命だと信じてがんばり抜きました。

現在は「ベンチャーの母」「国境なきお母さん」と呼ばれ、かつて関係が難しかった国々のリーダーたちとも長年信じ難いほどの熱い信頼関係を築いて来ました。彼らに本音で語ると涙を流されることもあり、「あなたのような人が必要だった、お母さんになって！！」と言われ、今では沢山のすばらしい息子と娘ができました。今まで何かあると必ず飛んで来てくれる、これ以上の財産があるでしょうか。

もうすぐ90歳になりますが、「死んでいる暇がない」と奔走の日々です。医師達からは「よく生きているね」と言われますが、特別な健康法はなく、ただ与えられた使命に真っすぐ向き合っているだけです。

私は日本を代表する超著名なベンチャー創業者たちからも「お母さん」と呼ばれ、彼らが大成功した今でも親子のような関係を続けています。彼らは「もしあの時代に今野由梨がいなかったら、僕たちもいなかった」と言ってくれます。私は自分のビジネスを犠牲にしてでも、彼らのために国の法・規制と戦いました。この国で、後から続く可愛いすばらしいけもの達の為に人生を賭けて「けもの道」を切り拓いて来ました。

世界の著名な大成功者を、可愛いけもの呼ばわりするのは貴女だけだと。嬉しいです。

若い起業家たちには、「起こったことには意味がある」と伝えたい。困難、試練は天からの贈り物、それを乗り越える過程で人は多くを学び苦難に打ち勝つ英知とパワーを得られるのです。

どうか皆さんも、利他の心を忘れずに使命に向かわれて歩み続けてください。

あと30年は現役で頑張ります。

本日は本当にありがとうございました。

第25回 高校生エッセー・コンテスト 結果発表

2025年10月12日、津田梅子記念会＆ホームカミングデーにおいて第25回高校生エッセー・コンテストの選考結果発表会が執り行われました。

最優秀賞に選ばれた峰凛々花さんは、スケジュールの都合により当日のご出席が難しかったため、動画で受賞作品の朗読を寄せてくれました。

応募作品129編（内訳：英語作品78編、日本語作品51編）

選考の結果、次の方たちが最優秀賞・優秀賞に選ばれました。（アルファベット順）

■最優秀賞（1名）	**峰 凛々花**さん	成蹊高等学校（東京都）	1年生（日本語）
■優秀賞（3名）	**林 樟太朗**さん	膳所高等学校（滋賀県）	3年生（日本語）
	金生ベカ 美愛さん	法政大学高等学校（東京都）	2年生（英語）
	加藤 里桜さん	Clear Lake High School（Texas）	3年生（英語）

最優秀作品

成蹊高等学校1年生　峰 凛々花 さん

虚ろな目をして憔悴しきったピッピが、家から出ずに泣いているのが見える。社会や大人たちはピッピの行動に粘り強くダメ出しし、彼らが「正しい」と信じる型にはめるべく矯正し続けた。今やあのピッピが、「気を付け！礼！前へ倣え！」という敬礼までできるようになり、周囲は「まともになった」「やっと成長した」と喜んだ。でもピッピはもはや、かつてのピッピではなかった……。

私もピッピだった。子どもは皆ピッピだ。自由で楽しくて、ビビビババババで大笑いできる逆立ち歩きのピッピ。けれど「ダメの壁」は至る所にあり、「普通」という枠からはみ出た「魂の棘」や「夢見る翼」、「無邪気な悪」といった個性の芽は削ぎ落とされ、画一的な「優等生」へと変えられてしまう。学校という箱に入れば、皆、同じ形の「人型ロボット」へと仕立てられてしまう。

そんな生きづらさを感じるのは私だけじゃなく、クラスメートも、ひとり、またひとりと姿を消していった。彼らがいなくても、まるで最初から存在しなかったかのように、日常は進んでいく。空席の机に積もるプリントを、先生が「もう配らなくていい」と言ったとき、私は言葉を失った。何もできない自分が、彼らを置いてけぼりにする大人たちの「共犯者」になったのだと、その無力感に打ちのめされていた。せめて、「学校に来なくても、あなたはずっとクラスメートだよ」と伝えられたらよかったのに。ニュースで「引きこもり」の話題に触れるたび、彼らが憔悴した「現代のピッピ」に思え、苦しくなる。彼らはきっと、「家に留まる」という選択で自分を守り、個性を失わないための最後の抵抗をしているのだ。

ピッピが「学校にはもう行かない」と決めたように、学びの場は学校だけじゃない。しかし、「不登校」という言葉は、非があるかのように突き放すだけで、他の選択肢を尊重しようとはせず、希望の道も示さない。誰かが決めた「正常」から外れた人間は、その診断書を拠り所のように握りしめ、「正しくない」理由はその病名にあると言い聞かせる。だが、そもそも「正常」とは何なのか？　誰が何の基準で決め、その価値を測るのか？　「本人の幸せ」は一体どこに？

私と彼らとの違いは、「自分」を守ったか、「普通」のために差し出したか……なのかもしれない。本当は私だって、ピッピに負けないくらいハチャメチャだったのに！　同調圧力に屈せず、「NO」と言える強さを持ち、自分のためだけでなく、他者のために戦う「世界一強い女の子」は私たちだ、といえる自分でありたい。「常識になんか囚われるな！自分の道を行け！つまらない人間になるな！」――ピッピの声が耳元で響く。そして、木の上にひょいと登り、私たちを見下ろしながら、こう続けるのだ。

「さあ、グズグズしてるのはおしまいよ！　自分の好きなように生きなきゃ。じゃなきゃ、人生なんて退屈すぎて、あくびが出ちゃうわ！ほら、こっちへおいで。だって、あなたが生きてるだけで、世界はもっと面白くなるんだから！」

●講評

2025年度高校生エッセー・コンテスト審査委員長・
ライティングセンター長（学芸学部多文化・国際協力学科教授）
木村 朗子

2025年はアストリッド・リンドグレーン『長くつ下のピッピ』の生誕80年である。ピッピは、戦後の時間を共に歩んできたことになる。大きく世相が変わったいま本作はどのように読まれているのだろうか。「〈長くつ下のピッピ〉が今いたならば……」と想像を膨らませたエッセイが集まった。

最優秀賞は峰凛々花さん。峰さんは早々に学校システムから離脱したピッピについて、では学校に行くというのはどのようなことかと問う。いまでいえばピッピは「不登校」児ということになるわけだが、ではピッピはダメな子なのか。峰さんは「私もピッピだった。子どもは皆ピッピだ」といい、ピッピのなかに同調圧力に屈せず、「NO」と言える強さを見出す。それこそがピッピがいつの時代にも古びないメッセージなのでしょう。

優秀賞には選ばれたのは、順不同で、日本語エッセイとして林樟太朗さん、英語エッセイには加藤里桜さん、金生ベカ美愛さん。

林樟太朗さんは、まさに「ピッピのよう」な子だったという。北欧由来の教育をする「森のようちえん」でのびのびと育った林さんは、後年、北欧を旅してピッピの生まれた国にも訪れている。こうした根っからのピッピ精神を受け継いだ林さんは日常の違和感を見逃すことなく未来をつくっていくのだ、と結んでいる。

加藤里桜さんは、アメリカの学校でシャケときゅうりの酢の物の入ったお弁当に嫌悪を示された経験を語る。もしそこにピッピがいたならきっと好奇心で目を輝かせたはずだ。加藤さんにとってピッピとは自分とは異なる文化的背景を持つ人のそばに座って、それを知ろうとして分かち合おうとする人のことだという。

金生ベカ美愛さんは、ルールに従うように仕向けられた学校社会で、既存の制度に立ち向かうピッピについて、それはファンタジーなどではない、一種のモデルとなるべき姿なのだと述べる。少々不器用で、それゆえに人間的なピッピのような人こそ、いま求められているのだ、と。

自らがピッピとなって世の中を変えるのだという高校生の力強い決意を読んで明るい未来を感じることができた。

大山捨松賞授与式

2025年8月8日、大山捨松賞の授与式が執り行われました。

この賞は、大山捨松が津田梅子とともに日本初の女子留学生として渡米し、初めて海外の大学で学位を取得した女性であることにちなみ、本学で優秀な成績を修め、学位取得のために海外大学院へ進学する学生に授与されます。

なお、卒業時には進学先は決定していないため、進学先が確認された学生に対し、卒業翌年度に授与されます。

2025年度の受賞者は、次の2名となりました。

■2025年度受賞者

2024年度 学芸学部 国際関係学科卒業　**舟橋 星浦さん**
2024年度 総合政策学部 総合政策学科卒業　**中本 帆南さん**

※ 受賞者へは賞状と、副賞として金10万円が送られます。

第8回エッセーコンテストJr.受賞者発表

英語英文学科にて小・中学生を対象とした「第8回エッセーコンテスト Jr.」を開催しました。戦後80年の今年は、原爆をテーマとした山内若菜さんの絵を見て考えたことを自由に書いてもらいました。

国内外から日本語、英語での応募があり、Jr. 大賞2名、Jr. 奨励賞6名に加えて、山内さんからの推薦の特別賞1名が選ばれました。

受賞者に賞状・副賞と記念品（同学科助教・伊藤千晴先生が撮影した小平キャンパスの写真カレンダー）、そして参加者全員に記念品を、メッセージを添えて贈呈しました。

受賞者は、下記の方々です。おめでとうございます。

■Jr.大賞

Chie Shimadaさん	Chadwick International School	Grade 6
田 ジンさん	芦屋学園中学校	2年

■Jr.特別賞（特別賞は、課題作品の作者である山内若菜さんのご推薦によるもの。）

松本 啓花さん	所沢市立安松中学校	2年

■Jr.奨励賞

ベイカー 寧々さん	糸島市立二丈中学校	2年
平子 翔貴さん	Tokyo Bay International School	Grade 6
清野 翔真さん	小平市立小平第八小学校	5年
塚本 愛子さん	浦安市立浦安中学校	2年
若狭 早さん	愛媛大学教育学部附属小学校	2年
渡辺 カンナさん	白百合学園小学校	2年

（アルファベット順）

2025年度 梅子スカラシップ（学業）受給者発表

梅子スカラシップ（学業）は2年生以上を対象とした給付奨学金です。各学科から推薦された学業・人物優秀者を対象に全学学生委員会で選考されます。受賞者は28名となりました。2025年度の授与式は、9月24日に小平キャンパスと千駄ヶ谷キャンパスにて対面で行われ、会場では小平キャンパスは髙橋学長に代わり菅副学長より、千駄ヶ谷キャンパスは奥脇副学長から受給者へ証書が授与されました。

受給者は次のとおりです（敬称略、順不同）。

▲授与式(小平キャンパス)

学芸学部

英語英文学科

学年	氏名
2	二木 慧心
3	貝吹 理紗
3	大瀧 朋佳
3	栗原 優衣
4	渡辺 美羽瑠
4	鈴木 妃菜
4	市原 沙弥
	他　1名

国際関係学科

学年	氏名
2	三浦 ゆめか
2	向井 和香奈
3	曽我部 小春
3	八馬 彩乃
3	清水 ゆり
4	助川 碧
4	藏田 鈴
4	松山 直穂

数学科

学年	氏名
2	田中 花菜
3	寺内 風花

情報科学科

学年	氏名
3	佐藤 舞
	他　2名

多文化・国際協力学科

学年	氏名
2	小笠原 寿永子
3	SUN JIANING
4	尋木 さゆり

総合政策学部

総合政策学科

学年	氏名
2	大澤 歌鈴
3	金子 華凜
3	荒瀬 史歩
4	浅井 志穂

▲授与式(千駄ヶ谷キャンパス)

優良教育賞 受賞者発表

本学では、全学SD・FD委員会を設置し、教員の教育力向上を目指したFD活動を行っています。その一環として、「授業評価に基づく教育業績の表彰に関する規程」に則り、「優良教育賞」を2015年より授与してまいりました。「優良教育賞」は、受講者数や授業形態等の条件に基づき、前年度の学生による授業評価アンケートにおいて、いくつかの質問事項に対する学生からの評価が高かった科目の担当教員を対象として、学長が表彰するものです。今年度は、下記7名に授与されました。

「第二言語習得概論（英語教育）」
第1･3･4ターム
稲垣 善律先生

「アメリカ経済（アメリカ経済史）(1)」
第1ターム
星野 智樹先生

「プログラミング I（演習付）(4)」
第4ターム
来住 伸子先生
永並 健吾先生

「グローバル・ポリティクス論」
第1ターム
大島 美穂先生

「ICT活用の理論と方法（2022年度以降入学者）」
第4ターム
佐藤 玲子先生

「ドイツ語 I（演習）a（英）」
第1･3･4ターム
松原 良輔先生

津田塾大学へのご支援
創立125周年記念事業募金 ご協力のお願い

本学は、津田梅子の建学の精神に基づき、今日にいたる伝統を受け継ぎつつ「変革を担う女性」の育成を目指して教育、研究の一層の充実発展を図るべく、「創立125周年記念事業募金」を実施しています。本学の教育研究環境は、これまでも同窓生をはじめとする社会の皆様のご芳志に支えられて築かれてまいりました。「創立125周年記念事業募金」につきまして、3つの記念事業を推進するため、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記念事業

1．国際化のさらなる推進事業
（1）奨学金等による海外への学生派遣・留学生受入の支援、国際化イベント等実施
（2）海外大学院とのデュアルディグリープログラムの実現
（3）新寮建設による留学生を含めた学生支援

2．女性IT人材育成事業
（1）数理・データサイエンス・AI教育の強化
（2）理系新学部の拠点となる校舎（新2号館）の建設

3．地域連携活動の強化　ウェルネスの拡充事業
（1）生涯教育モデルの実現
（2）連携推進センター活動と女性キャリア支援
（3）ウェルネスの拠点となる施設の建設

寄付金募集要項

1．寄付金目標額　3億円

2．募集期間　2024年4月1日から2028年3月31日まで

3．寄付金の種類　（1）個人の寄付金　1口 1万円
（2）法人の寄付金　1口の金額は特に定めておりません。

4．申込および払込方法

（1）金融機関
Webサイト（https://support.tsuda.ac.jp/method/index.html）より「寄付申込書」をダウンロードのうえご記入・ご提出（申込）後、振込先銀行口座をお知らせいたします。

（2）クレジットカード
インターネットからお申込みができます。詳細は、Webサイト（https://kifu.fm/tsuda/form.php）をご参照ください。

（3）現金
津田塾大学小平キャンパス経理課窓口にて取扱っています。
窓口での現金取扱時間は、平日9:00～11:15、12:15～15:30です。

5．ご寄付をいただいた皆さまへの礼遇について

（1）銘板への掲載
ご寄付を賜りました方々のご芳名を、新2号館内に設置予定である銘板に末永く顕彰させていただきます。また、報告書等では、ご芳名および寄付額を公表させていただく予定です。

（2）記念品の贈呈
創立125周年記念事業募金の寄付の累計額が30万円以上※に到達された方には、返礼品として創立125周年記念事業募金の顕彰用に企画されたオリジナルの「漆塗りボトル」または「漆塗りタンブラー」を贈呈させていただきます。
※2024年4月1日～の累計とさせていただきます。

また、1口以上ご寄付いただいた方にはお礼の品をお送りさせていただきます。詳細は本学Webサイト https://support.tsuda.ac.jp/projects/125th.html でお知らせいたします。

寄付金に対する税制上の優遇措置について

寄付控除
学校法人津田塾大学への寄付金は、所得税、法人税、相続税の税制上の優遇措置が受けられます。
https://support.tsuda.ac.jp/benefits/tax.html

遺贈による寄付
遺贈により学校法人津田塾大学へご寄付頂いた財産は、原則として、その遺贈財産は非課税財産となります。
https://support.tsuda.ac.jp/projects/bequest.html

ふるさと納税を活用した学校法人支援

本学は、渋谷区「ふるさと納税を活用した学校法人支援」事業団体に指定されています。これにより、ふるさと納税制度を通じて本学へのご支援が可能になるとともに、ご寄付者は、所得税や住民税の控除を受けられます。
※返礼品はありません。
https://furusato-shibuya.jp/cf_school/detail.php?unid=cc941ca45261f6e79d1d2fda2ff21ed5

2025年度 第1回「相続・遺贈セミナー」のご案内

本学の新たな取り組みとして、相続・遺贈の基礎知識について金融機関の専門家を講師に招いた事前予約制のセミナーを開催します。

●テ ー マ：「今から考える相続対策～あなたの想いを未来に託す～」
※https://www.tsuda.ac.jp/event/20260114.html
●講　　師：上級財務コンサルタント　滑川 成美氏（三井住友信託銀行株式会社）
●日　　時：2026年1月14日（水）14:00～15:00
●定　　員：50名
●会　　場：津田塾大学小平キャンパス 本館（ハーツホン・ホール）2階 H201教室
●申込方法：申込フォーム（https://forms.gle/yeXLE1UcuWoq5hsbA）よりご登録ください。※参加費無料
※セミナー参加者を対象とした事前予約制の個別相談会（6組限定）をセミナー終了後に行います。
参加希望の方は、上記フォームからお申し込みください。なお、先着順となりますので、定員となり次第、受付終了といたします。
●お問い合わせ：経営企画課　TEL：042-342-5113　E-mail：bokin@tsuda.ac.jp

寄付者ご芳名（2025年5月1日から2025年8月31日現在 掲載承諾者のみ）

サポート＜津田スピリット＞募金 創立125周年記念事業募金

赤松 良子　様
伊藤 実佐子　様
伊藤 容子　様
稲田 和子　様
岩岡 和宏　様
岩淵 崇　様
上田 明子　様
江河 志保　様
江見 富美子　様
岡田 明子　様
片野 弓子　様
北原 糸子　様
木村 園子　様
久世 恭子　様
黒﨑 真由美　様
此枝 洋子　様
小林 彩子　様
小山 麻理子　様
佐藤 静子　様
椎名 浩如　様
重本 恭子　様
鈴木 淳　様
鈴木 芳枝　様
セイフィ 亜紀　様
高塚 悌治　様
髙野 麻友子　様
高橋 裕子　様
滝澤 智　様
田窪 敏子　様
田中 延子　様
土屋 典子　様
堤 螢子　様
中嶋 喜久子　様
中村 香　様
根本 和彦　様
畑 惠子　様
簇野 充子　様
花岡 通子　様
久野 真弥　様
平岩 栄一　様
福島 美恵子　様
藤盛 節子　様
松丸 順子　様
水野 祐子　様
宮澤 幸子　様
向井 祐介　様
Murata Tomoko　様
山田 真弓　様

愛知株式会社　様
株式会社フジタ　様

匿名　19名

サポート＜津田スピリット＞募金

●学修環境整備（小平キャンパス）
匿名　1名

●教育振興資金
匿名　2名

●その他
匿名　1名

理事会・評議員会開催報告

第207回評議員会　2025年5月30日

【審議事項】
1. 監事選任に関する件
2. 会計監査人選任に関する件
3. 評議員選任に関する件

【諮問事項】
1. 理事の選任に関する件
2. 役員・評議員報酬等規程の改定に関する件

【報告事項】
1. 新学部設置準備状況について
2. 名誉教授称号授与及び津田塾友の称号授与について
3. 2025年度入学志願者状況と入学者数について
4. 元非常勤講師契約不更新訴訟について
5. 地位確認等請求事件について
6. 小平キャンパス施設の建設・改修について
7. その他

第344回理事会　2025年5月30日

【審議事項】
1. 2024（令和6）年度事業報告、第2期中期計画進捗報告に関する件
2. 2024（令和6）年度決算（案）に関する件
3. 役員賠償責任保険の契約更新に関する件
4. 千駄ヶ谷キャンパスサービス株式会社監査役の選任に関する件
5. 新学部設置に伴う各学部・各学科の入学定員及び専任教員数に関する件
6. 評議員会の招集および議案に関する件
7. 役員・評議員報酬等規程の改定に関する件

【報告事項】
1. 理事選任について
2. 2024年度及び2025年度公的研究費の管理件数について
3. 2024年度卒業生の進路について
4. 2024年度寄付報告について
5. 千駄ヶ谷キャンパス南側土地活用に関する件
6. その他

第208回評議員会　2025年6月27日

【諮問事項】
1. 新学部設置に伴う各学部・各学科の入学定員及び専任教員数に関する件

【報告事項】
1. 理事選任等について
2. 2024（令和6）年度事業報告、第2期中期計画進捗報告に関する件
3. 2024（令和6）年度決算（案）に関する件
4. 役員賠償責任保険の更新について
5. 2024年度及び2025年度公的研究費の管理件数について
6. 大学評価（認証評価）結果について
7. その他

第345回理事会　2025年6月27日

【審議事項】
1. 理事の競業に係る個別承認に関する件
2. 責任限定契約に関する件
3. 新学部設置に伴う各学部・各学科の入学定員及び専任教員数に関する件
4. 新学部設置準備室人事に関する件

【報告事項】
1. 大学評価（認証評価）結果について
2. 理事長・代表業務執行理事及び業務執行理事の職務執行報告
3. 理事の職務について
4. その他

第346回理事会　2025年7月25日

【審議事項】
1. 理事会運営規程の訂正に関する件
2. 学芸学部の名称変更に関する件
3. ウェルネス館に係る実施設計と新築工事契約締結に関する件
4. 新2号館に係る基本設計に関する件

【報告事項】
1. 新学部設置準備状況について
2. 2025年度監事監査計画及び監事監査ポリシーの改定について
3. その他

小平市立小平第十五小学校の児童のみなさんが小平キャンパスに来校されました

2025年10月24日、小平市立小平第十五小学校より、約90名の1年生のみなさんが小平キャンパスに来校し、大小さまざまの松ぼっくりやどんぐり、木の実などを拾いながらキャンパス内を散策しました。

こんなの見つけたよ！という声があちこちで聞かれ、楽しい秋探しの時間となりました。

ようこそ津田塾大学へ（留学生紹介）

2025年9月に12名の交換留学生が津田塾大学に入学しました。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

●CYセルジー・パリ大学（フランス）
EHLY DAPHNE CECILE EMMANUELLE
（エリー ダフネ セシール エマヌエル）/国際関係学科
ORLANDO EMMA SYLVIE
（オルランド エマ シルヴィー）/国際関係学科

●梨花女子大学（韓国）
GU NAHYEON
（ク ナヒョン）/英語英文学科
LEE SEOYUN
（イ ソユン）/情報科学科

●メトロポリタン自治大学（メキシコ）
GIL PEREZ ANA JIMENA
（ヒル ペレス アナ ヒメナ）/国際関係学科

●スペルマン大学（アメリカ）
EDWARDS BRIANNA LICHELLE
（エドワーズ ブリアナ リシェール）/国際関係学科
OGUNSANYA NAOMI OLUWAFEYIKEMI
（オグナサンヤ ナオミ オルワフェイケミ）/国際関係学科

●ロンドン大学大学SOAS（イギリス）
PACQUETTE FISHER ATHALIAH DENYE ANISA
（パックエット フィシャー アサリア デニー アニサ）/英語英文学科

●ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ（ドイツ）
JAKOBI HANNAH
（ヤコビ ハナ）/国際関係学科

●国民大学（韓国）
RHO JIYUN
（ノ ジユン）/多文化・国際協力学科

●ハノイ国家大学外国語大学（ベトナム）
DO NGOC HA CHI
（ド ゴック ハ チー）/国際関係学科
HOANG VU NGOC TRAM
（ホアン ヴ ゴック チャム）/国際関係学科

（大学別）

新任職員紹介

（10月1日付）

経営企画課
原田 陽子

前職では私立大学にて、主に入試広報業務に従事しておりました。この度、歴史のある津田塾大学の一員として勤務させていただけることを、大変嬉しく思っております。
日々の業務に誠意をもって取り組み、本学の発展に貢献できる一助となれるよう尽力してまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

総務課
野田 優里

前職は自動車メーカーで事務職として、海外渉外のサポート業務を担当しておりました。かけがえのない貴重な4年間を過ごした母校に戻り、今度は運営側として大学に貢献できることを大変嬉しく思うと同時に、責任感も感じております。“all-round women”を体現するような働きができるよう尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

学生生活課
矢越 はる花

前職では異なる業界にて4年半ほど勤務しておりました。この度、伝統ある津田塾大学にて勤務する運びとなり、大変うれしく思います。学生生活課の職員として、学生の皆様の大学生活がよりよいものとなるよう、丁寧に業務に取り組んでまいります。一日一日を大切に精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2026年度 一般選抜情報

入試制度	学　科		募集人員	出願期間	入学試験	合格発表	入学手続締切	
一般選抜	A方式	(学)英語英文学科		75	2026年 1/4(日)～1/23(金)	2/5(木)	2/15(日)	2/20(金)	延納の場合の最終手続締切日 3/25(水)
		(学)多文化・国際協力学科		40					
		(学)数学科		20					
		(学)情報科学科		22					
		(学)国際関係学科		65		2/6(金)			
		(総)総合政策学科		35		2/7(土)			
	A方式 (英語外部試験利用型)	(学)英語英文学科		10		2/5(木)			
		(学)多文化・国際協力学科		5					
		(学)数学科		2					
		(学)情報科学科		3					
		(学)国際関係学科		10		2/6(金)			
		(総)総合政策学科		5		2/7(土)			
	B方式	(学)英語英文学科		20	2026年 1/4(日)～2/18(水)	2/28(土)	3/8(日)	3/13(金)	
		(学)国際関係学科		20					
		(学)多文化・国際協力学科		10					
		(学)数学科		5					
		(学)情報科学科		5					
	C方式 (前期)	(学)英語英文学科	3教科型	15	2026年 1/4(日)～1/16(金)	共通テスト 1/17(土) ・ 1/18(日)	2/15(日)	2/20(金)	
			4教科型	15					
		(学)国際関係学科	3教科型	20					
			4教科型	15					
		(学)多文化・国際協力学科		5					
		(学)数学科	3教科型	5					
		(学)情報科学科		10					
		(総)総合政策学科	3教科型	10					
	C方式 (後期)	(学)英語英文学科	5科目型	5	2026年 1/19(月)～3/8(日)		3/18(水)	3/25(水)	
		(学)数学科	2教科型	3					
		(総)総合政策学科	4教科型	10					
			2教科型	10					

(注) 出願期間及び入学手続締切日に〔必着〕の添書きがない場合は、締切日当日の〔消印有効〕です。　(注) 学芸学部は（学)、総合政策学部は（総）と表示しています。

2025年度より、学生アンバサダーを発足しました

本学では、本学の魅力や学びの環境をより多くの中学生や高校生、また、その保護者へ伝えるため、2025年度より学生アンバサダーを発足いたしました。

学生アンバサダーは、在学生の目線で広報関連の情報を発信する役割を担います。学生アンバサダー自身の体験をもとに語られる大学生活や学びに関する情報は、従来の広報活動では伝えきれなかった津田塾大学の特色を伝えるメッセージになると考えています。また、在学生が能動的に本学の広報に関わることで、現在以上に大学への理解と帰属意識が深まり、自らの成長の機会にもつながります。

学生アンバサダーの役割

1. 学生視点での情報発信を行う
2. 津田塾大学の価値を再確認する
3. 社会に向けた情報発信力や表現力を身につける

学生アンバサダーは、大学と中学生や高校生、また、その保護者に加えて、社会をもつなぐ大切な架け橋です。津田塾大学は、アンバサダーの主体性を尊重しながら、その成長と活躍をサポートしていきます。

詳しくは、ぜひ以下の大学公式Webサイトをご覧ください。
https://www.tsuda.ac.jp/aboutus/student_ambassador.html

学生アンバサダーが考える、津田塾の魅力とその広報について

在学生のリアルな意見が飛び交う様子をInterviewに掲載しています。ぜひご覧ください。
https://www.tsuda.ac.jp/learning/interview/dialogue/250923.html

津田梅子資料室 2025年度企画展「写真で見る125年」

〈会期〉2025年10月12日(日)～2026年9月30日(水)　※日時予約制

2025年、津田塾大学は創立125周年を迎えました。1900（明治33）年、日本初の女子高等教育機関である“女子英学塾”が誕生してから、2025（令和7）年までの125年間は、世界規模の戦争が勃発し、それだけでなく自然災害も頻発、そこからの復興･･･まさに激動の時代。日本は何度も揺れ動き、そして立ち直り、さらに成長を繰り返してきました。

津田塾の学舎もまた、震災や戦争の影響を受け、授業もままならない日々もありました。しかしそのような苦難のさなかであっても、明るく屈託のない笑顔で毎日を精一杯過ごしていた学生たちの姿が、数々の写真に残されています。厳しい時代であっても明るさを忘れない“津田塾生”たちは、やがて世界を支える人材となって羽ばたいていきました。

本展では“津田塾生の笑顔”125年の歴史を、貴重な写真資料を基に振り返ります。校舎、校地の移りかわり、かつて全校あげて楽しんだ行事など、懐かしい風景をお楽しみください。

お知らせ

総合政策学部 大島美穂先生退職記念会のご案内

●ミニ講義：「北欧研究から学んだこと」
●懇 親 会：立食形式
●日　　時：2026年2月21日(土)
11:00～13:00（予定）
●場　　所：千駄ヶ谷キャンパス
（教室、カフェテリア）
●会　　費：2,500円（事前に振込要）

詳細は下記をご確認ください
https://forms.gle/nX1EoeUjYfjWfg9z6

クリスマス礼拝

2025年度のクリスマス礼拝は下記の通り実施いたします。奨励者のキャロル サック様より、メッセージと共に、ハープの演奏と歌をお届けいただきます。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

●日　　時：2025年12月10日(水) 16:20～17:50
●場　　所：津田梅子記念交流館内 岡島記念チャペル
●奨 励 者：キャロル サック氏
（宣教師・音楽サナトロジスト）
●メッセージ：「Be Still, and Know That I am God
―静まって、わたしこそ神であることを知れ―」
●お問い合わせ：総務課　E-mail：soumu@tsuda.ac.jp

冬期公開講座（大学院文学研究科英語教育実践研究）

本講座では4日間にわたり4人の先生方に、英語教育に関わる方々に向けて、ご自身の実践されてきたご指導、ご提案などについてお話しいただきます。詳細は大学公式Webサイトをご覧ください。

冬期公開講座「現代の英語教育実践で考慮すべき課題とは」

●日　　程：2025年12月23日(火)、24日(水)、26日(金)、27日(土)　各日とも 10:30～12:00
●講　　師：23日(火)：高杉達也先生「タスクの要素を中高英語授業に生かすために」
24日(水)：執行智子先生「英語の音と文字の関係の認識から読み活動まで」
26日(金)：本多敏幸先生「教科書本文の『読むこと』の指導と評価」
27日(土)：Jonathan Picken先生「Literature in L2 Teaching：Why and How」
●開 催 形 式：オンライン（Zoom）
●定　　員：60名
●受　　講　　料：各回 2,500円（本学学部生 1,000円）、全日程申込の場合は7,500円。
本学専任教員・非常勤講師、本学大学院生の受講料は無料。いずれも要事前申込。
●申 込 方 法：GoogleフォームのURLまたはQRコードからお申込みください。
●申 込 締 切：2025年12月12日(金)
●お問い合わせ：文学研究科英語教育実践研究担当　E-mail：e-info@tsuda.ac.jp

【Googleフォーム】
https://forms.gle/
6CDE5wnsVGoEJ6nCA

交流館プログラム

「ちょっと知って もっと楽しむ ジャズ入門」
●日　時：2026年1月27日、2月10日、
2月24日、3月10日、3月24日
火曜日全5回　13:30～15:00
●受講料：10,000円(本学在学生 5,000円)
●場　所：津田梅子記念交流館

「カウンセリング入門」
●日　時：2026年2月10日、2月17日、
2月24日、3月3日、3月10日
火曜日全5回　10:00～12:00
●受講料：10,000円(本学在学生 5,000円)
●場　所：津田梅子記念交流館

**「英語でものづくり
～クリスマスにヒンメリを作ろう～」**
●日　時：12月20日(土) 13:00～16:30
●受講料：2,000円
●対　象：小学4年生～中学1年生
●場　所：津田塾大学小平キャンパス

●申 込 方 法：【お申込フォーム】https://koryukan.tsuda.ac.jp/forum/apply/
●お問い合わせ：経営企画課　TEL：042-342-5146

● 表紙への想い ●

光差す場所（岡島記念チャペル）
CHIKU

津田梅子記念交流館にある岡島記念チャペルを制作しました。
多面的な白い天井を照らす柔らかな光や、木の温もりが印象的な美しい教会です。
それぞれ表情の異なる紙を組み合わせながら、切り絵で表現しました。

TSUDA UNIVERSITY
125th Anniversary 1900-2025
2025年、津田塾大学は創立125周年を迎えました

Tsuda Today No.135　発行日 ● 2025年11月28日　発行 ● 津田塾大学　編集 ● 経営企画課
〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1　Tel. 042-342-5113　https://www.tsuda.ac.jp/
表紙切り絵 ● CHIKU（種村千明・2000年卒）